

令和7年度第1回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

1. 日 時 令和7年7月31日（木） 13時30分～14時30分

2. 場 所 古賀市地域活動サポートセンター ゆい

3. 出席者

（委 員）三木会長、蓮尾副会長、石原委員、板谷委員、宮沖委員、中野委員、井上委員、
荒木委員、太田委員、菊池委員 計10名

（事務局）健康介護課課長：松尾

福 祉 課 課 長：吉武

健康づくり係係長：村上

福祉相談係係長：吉田

健 康 づ く り 係：5名

福 祉 相 談 係：1名 計10名

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第2項の規定により委員定数10名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

4. 議 題

（1）介護予防事業について

（2）生活支援体制整備について

5. 資料

【資料1】 介護予防事業について

【資料2】 生活支援体制整備について

【その他資料】

- ・「令和7年度高齢者外出促進事業」ルールブック
- ・「令和7年度こがんよか健康ポイントキャンペーン」チラシ
- ・「令和7年度古賀市いきいきボールンピック大会」チラシ
- ・「地域支えあいネットワーク通信 No18・19」

8. 会議内容

(1) 市あいさつ（健康介護課長）

本会参加の御礼等

(2) 新任委員の委嘱交付

健康介護課課長より委嘱（新任委員 2 名）

(3) 介護予防事業について …資料 1

事務局より、資料に沿って介護予防事業について説明。

【質 疑】

(委 員) 病院にかかっている高齢者は健診受診率に含まれているのか。

(事務局) 病院にかかっている人はカウントされていない。病院からのデータの受け渡しは本年度から。

(委 員) 古賀市の医療費が高い理由は。

(事務局) 後期高齢者の医療費の大半を慢性腎臓病（人工透析）が占めている。国民健康保険被保険者の医療費を見ると 40～74 歳は糖尿病が多い傾向である。糖尿病からの透析、高血圧で通院していない人の透析が原因で医療費が高くなっていると考えられる。

(委 員) 介護予防のために良いと思い、様々なサポーター活動をやっているが古賀市の医療費が県の医療費より高いのはどうしてか。成果が出てないのでは。

(事務局) 医療費は高いが介護認定率は低いので、認定を受けていない元気な高齢者が多く、皆様の努力が反映されていると思う。

(3) 生活支援体制整備について …資料 2

事務局より、資料に沿って生活支援体制整備について説明。

【質 疑】

(委 員) 資料②の 12 ページ地域ケア会議から見えてきた課題を具体的に。

(事務局) 運動機能の低下が介護サービスの上位を示している。運動機能の低下に伴い生活の質の低下、それが強いのは閉じこもりや認知力の低下につながるという課題が示された。元気な高齢者の方や介護サービスを受けている方、認知症の方がどのようにしたら共に地域に参加できるか考えていきたい。

(委 員) 資料②の 13 ページ記載のばらつきについては。花見東 2 区に関しては古賀市を通さず個人的な依頼がある。古賀市からの委託以外、個人的に依頼を受けて支援を行っている。外部から依頼があると積極的に来ていただけるのではないかな。だれでもできるような体操など共通の取り組みがあれば広がっていくのではないかなと思う。事業所から指導には行くが、あとは地域の中で回してほしいとの意見を聞いているので、事業所を活用し地域活動の参加者が増えていったらいいと思う。

(事務局) 介護施設の方々とも意見交換ができればと思う。

(委 員) 認知症当事者や家族も共に参加できるつどいの場は実際にあるのか。

(事務局) 9/20 に認知症に関する研修会を実施予定。地域活動に認知機能が低下している人が参加している事例を発表する予定としている。

(委 員) 認知症について一人一人の症状が違うので対応の仕方やどこまで踏み込んでいいのか悩んでいる。参考になることがあれば教えてほしい。

(事務局) 新しい認知症観を啓発している。今までは事象に着目していたが新しい認知症観は、その人のできることなどをサポートしながら生活できるよう支援していくもの。こういった意識を持つサポーターが関わるつどいの場等で広めていきたい。まだまだ新しい認知症観の共通認識ができていないので、これからしっかり啓発に力を入れていく。

(委 員) 新しい認知症観は認知があってもなくても地域で過ごしていきましょうという考え方だが、介護職員も市の出前講座で認知症講座を開いている。認知症サポーターでより広めていけるのではないかな。認知症サポーター養成講座で新しい認知症観の講義を行うことができるので、そこから認知症の理解につなげていき、つどいの場での適切な対応につなげていけるのでは。

(委 員) 福岡市の認知症フレンドリーセンターでは認知症の方を地域でどうするかという話にはならない。教える方も認知症の症状などの説明等はなく、症状や対応の仕方は学ばずに一人の人としてという考えになってきている。つどいの場での対応の仕方の悩み事などを抽出しておくと、サポーター養成講座で講師が対応できるのでは。

(4) その他・連絡事項

次回開催は 2 月頃予定。